

## ■ 概況

10/21～10/27のNYMEX・WTI先物市場は、82.50～84.65ドルの範囲で推移した。

28日は、小反発した。12月限の終値は、前日比0.15ドル高の82.81ドルで取引を終えた。イラン核合意の復活協議が再開するとの報道を受け、売りが先行した。ただ、交渉の不透明感は強く、売りは続かなかった。

週末29日は、続伸し、12月限の終値は前日比0.76ドル高の83.57ドル。主要産油国が現在の増産ペースを維持するとの観測から、需給の引き締まった状況が続くとみる買いが優勢だった。米国などは増産枠の拡大を求めているが、産油国は需要見通しに慎重なうえ、設備投資の遅れで増産が困難な一部諸国の状況を考慮するとみられる。

週明け11月1日は、3営業日続伸した。12月限の終値は、前週末比0.48ドル高の84.05ドルで終えた。主要産油国が増産に慎重な姿勢を維持するとの見方から、当面の需給の引き締めを見込む買いが優勢だった。

2日は、米原油在庫の積み増し観測から、4営業日ぶりに反落した。12月限の終値は前日比0.14ドル安の83.91ドル。

3日は、続落し、12月限の終値は前日比3.05ドル安の80.86ドル。週間統計で米原油在庫が市場予想以上に増え、需給引き締まりの観測が後退した。

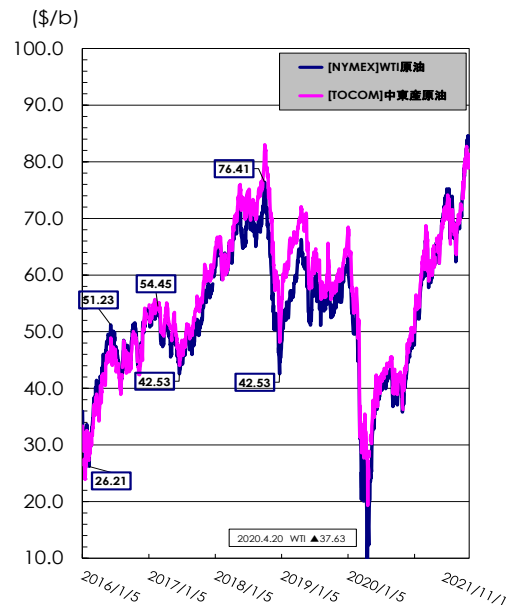
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（12月渡し）は、10月21日～10月27日の間、82.00～84.00ドルの範囲で推移した。10月28日82.00ドル、29日82.60ドル、11月1日81.30ドル、2日82.80ドルで推移した。

為替は10月21日～10月27日の間、113.72～114.28円の範囲で推移した。10月28日113.87円、29日113.67円、11月1日114.09円、2日114.11円で推移した。

財務省が10月28日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、10月上旬の原油輸入平均CIF価格は、52,427円/klで、前旬比1,312円高、ドル建て75.85ドルで前旬比1.89ドル高、為替レートは1ドル/109.89円。

そのような中で、11月1日時点の小売価格は、ガソリンが前週（10月25日）比1.4円の値上がり、軽油は同1.4円の値上がり、灯油は同29円の値上がり（18%ベース）だった。ガソリンは9週連続の値上がり、軽油も9週連続の値上がり、灯油も9週連続の値上がりだった。この週（11月第1週）の原油コストは値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、前週比1.5円の値下げとなった模様。

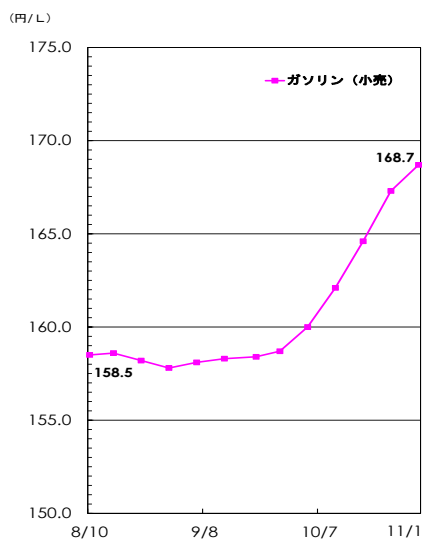
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/24～10/30	2,641 ▼ -100	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	68.6 ▼ -2.6	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	10/30	9,082 ▼ -814	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	11/1	79.66 ▼ -1.84	▲ 43.4
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	11/1	84.05 ▲ 0.29	▲ 47.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月上旬	75.85 ▲ 1.89	▲ 31.31
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	52,427 ▲ 1,312	▲ 22,870
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.89 ▼ -0.01	▼ -4.38
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/1	115.09 ▼ -0.37	▼ -9.33



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	10/24 ~ 10/30	836 ▼ -29 ▲ -	
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.
	出荷	"	725 ▼ -12 ▲ -	
	輸出	"	137 ▲ 74 ▲ -	
	在庫	10/30	1,550 ▼ -25 ▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/26 ~ 11/1	77.2 ▲ 0.3 ▲ 34.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/26 ~ 11/1	76.4 ▲ 0.4 ▲ 39.1
		(TOCOM/中部)	11/1	77.0 ▲ 5.0 ▲ 37.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/1	168.7 ▲ 1.4 ▲ 35.2	

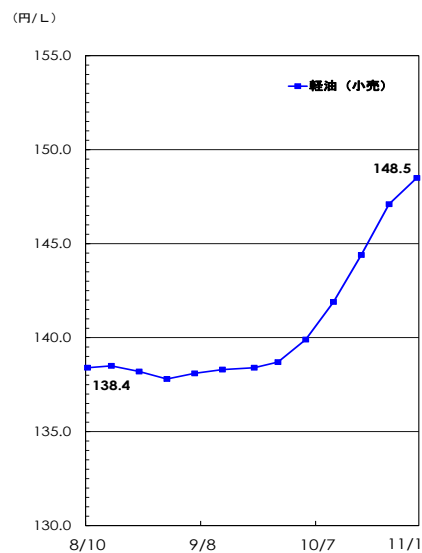
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

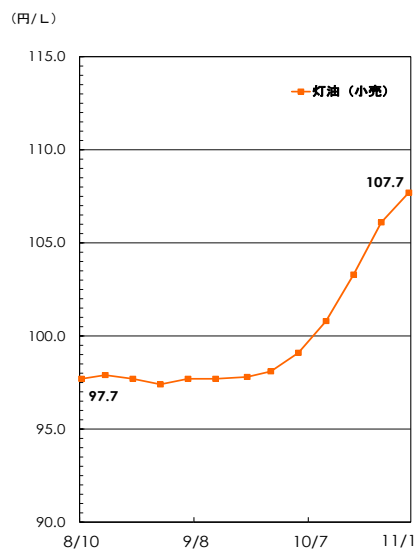
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	10/24 ~ 10/30	711 ▲ 4 ▲ -	
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.
	出荷	"	565 ▲ 1 ▲ -	
	輸出	"	200 ▲ 75 ▲ -	
	在庫	10/30	1,383 ▼ -55 ▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/26 ~ 11/1	78.8 ▲ 0.7 ▲ 34.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/26 ~ 11/1	79.5 ▲ 1.5 ▲ 34.3
		(TOCOM/中部)	11/1	- - -
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/1	148.5 ▲ 1.4 ▲ 34.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	10/24 ~ 10/30	228 ▲ 8 ▼ -	
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.
	出荷	"	237 ▼ -46 ▲ -	
	輸出	"	0 → 0 ▼ -	
	在庫	10/30	2,602 ▼ -9 ▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/26 ~ 11/1	78.7 ▲ 1.3 ▲ 34.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/26 ~ 11/1	76.5 ▲ 1.1 ▲ 36.0
		(TOCOM/中部)	11/1	77.2 ▼ -0.6 ▲ 35.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/1	107.7 ▲ 1.6 ▲ 28.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

11月3日のNYMEX先物原油は、続落し、12月限は前日比3.05ドル安の80.86ドル、1月限は前日比2.87ドル安の79.57ドルで取引を終えた。米エネルギー情報局(EIA)が午前前に発表した10月29日までの1週間の米原油在庫は前週比330万バレル増と、市場予想(ロイター通信調査、220万バレル増)を上回る積み増しとなった。一方、ガソリン在庫は150万バレル減(同130万バレル減)、ディスティレート(留出油)在庫は220万バレル増(同140万バレル減)。予想を上回る原油在庫の増加を受けて供給逼迫懸念が後退し、日中を通じて売り圧力が強まり、一時80.19ドルまで売り進まれた。

EIAによると、11月1日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.7セント値上がりの1ガロン3.390ドル(102.9円/ℓ)、ディーゼルは同1.4セント値上がりの3.727ドル(113.2円/ℓ)となった。ガソリンは5週連続の値上がり、ディーゼルは7週連続の値上がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年10月24日～10月30日に休止したトッパー能力は51.9万バレル/日で、前週に対して9.4万バレル/日増加した(全処理能力は345.8万バレル/日)。原油処理量は264.1万klと、前週に比べ10.0万kl減少。前年に対しては0.3万klの減少。トッパー稼働率は68.6%と前週に対して2.6ポイントの減少、前年に対しては0.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、灯油、軽油が増産、その他の油種で減産となった。

ガソリン/3.3%減、ジェット/13.5%増、灯油/3.7%増、軽油/0.5%増、A重油/12.7%減、C重油/24.9%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は20.0万kl(前週比7.5万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でジェット、軽油、A重油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。

前年比ではC重油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンの出荷は72.5万kl(対前週1.7%減)と2週連続で減少した。

ジェット8.9万kl(対前週58.7%増)、灯油23.7万kl(対前週

16.1%減)、軽油56.5万kl(対前週0.2%増)、A重油18.5万kl(対前週6.9%増)、C重油16.5万kl(対前週3.0%増)。

(単位:千kl)

	今週 (10/24 ~ 10/30)	前週 (10/17 ~ 10/23)	前週比
ガソリン	725	737	▼ -12 (-2%)
ジェット燃料	89	56	▲ 33 (59%)
灯油	237	283	▼ -46 (-16%)
軽油	565	564	▲ 1 (0%)
A重油	185	173	▲ 12 (7%)
C重油	165	160	▲ 5 (3%)
合計	1,966	1,973	▼ -7 (-0%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月30日時点の在庫は、全油種で取り崩しとなった。

前年に対しては全油種で減少となった。

ガソリンは155.0万kl、前週差2.5万kl減。前年に対しては36.1万kl少ない。

灯油は260.2万kl、前週差0.9万kl減。前年に対しては29.5万kl少ない。

軽油は138.3万kl、前週差5.5万kl減。前年に対しては23.3万kl少ない。

A重油は71.1万kl、前週差1.0万kl減。前年に対しては6.8万kl少ない。

C重油は175.8万kl、前週差6.3万kl減。前年に対しては2.8万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (10/30)	前週 (10/23)	前週比
ガソリン	1,550	1,575	▼ -25 (-2%)
ジェット燃料	712	770	▼ -58 (-8%)
灯油	2,602	2,611	▼ -9 (-0%)
軽油	1,383	1,438	▼ -55 (-4%)
A重油	711	721	▼ -10 (-1%)
C重油	1,758	1,821	▼ -63 (-3%)
合計	8,716	8,936	▼ -220 (-2.5%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月26日～11月1日の指標原油価格は前週(10月19日～25日)比で値下がりし、為替レートは円高で、円建ての原油コストは値下がりしたものと見られる。

次週(11/4～10)の大手元売卸価格は、産油国国営石油会社の10月積み原油の引き下げもあり、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比1.5円の値下げとなった模様。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

10月26日～11月1日の製品スポット市況は、10月19日～10月25日平均と比べ、全油種・全取引で、値上がりした。

直近週(10/26～11/1)の陸上スポット価格平均値は、前週(10/19～10/25)比で、ガソリンは0.3円の値上がり、灯油は1.3円の値上がり、軽油は0.7円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(10/26～11/1)に、前週(10/19～10/25)比で、ガソリンは0.6円の値上がり、灯油は0.8円の値上がり、軽油は1.2円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.4円の値上がり、灯油は1.1円の値上がり、軽油は1.5円の値上がりだった。

(RIM)		(単位: 円/%)		
(陸上ローリー4地区平均)	今週 (10/26～11/1)	前週 (10/19～10/25)	前週比	
レギュラー	77.2	76.9	▲ 0.3	
灯油	78.7	77.4	▲ 1.3	
軽油	78.8	78.1	▲ 0.7	

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
(期近物/終値[平均])	今週 (10/26～11/1)	前週 (10/19～10/25)	前週比	
レギュラー	76.4	76.0	▲ 0.4	
灯油	76.5	75.4	▲ 1.1	
軽油	79.5	78.0	▲ 1.5	

※上記価格は税抜き価格

参考値 (10/26～11/1実績値) (単位: 円/%)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.3	▲ 0.4	▲ 0.3
灯油	▲ 1.3	▲ 1.1	▲ 1.2
軽油	▲ 0.7	▲ 1.5	▲ 1.1
A重油	▲ 1.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

11月1日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(10月25日)比1.4円高の168.7円、軽油は同1.4円高の148.5円、灯油は18%ベースで同29円高の1,939円(1%ベースでは同1.6円高の107.7円)。ガソリンは9週連続の値上がり、軽油も9週連続の値上がり、灯油も9週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは45都道府県で、横ばいは1県、値下がり1県であった。全国最安値は163.5円の徳島県(同0.9円高)、その次は、163.7円の岩手県(同1.2円高)、他方、最高値は176.9円の鹿児島県(同2.9円高)だった。最も値上がりしたのは同3.4円高の東京都

(171.5円)で、横ばいは鳥取県の1県、値下がりしたのは同0.2円安の富山県(169.9円)の1県だった。

今週(10月26日～11月1日)の指標原油価格は値下がりし、為替レートは円高で、円建ての原油コストは値下がりしたものと見られる。次週(11月4日～10日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比1.5円の引き下げとなった模様。次回調査時(11月8日)のガソリンの小売価格は、値下がり予想される。

(資工庁公表)		(単位: 円/%)			
[週動向]	今週 (11/1)	前週 (10/25)	前週比	直近高値	
レギュラー	168.7	167.3	▲ 1.4	08/8/4	185.1
灯油	107.7	106.1	▲ 1.6	08/8/11	132.1
軽油	148.5	147.1	▲ 1.4	08/8/4	167.4

小売価格

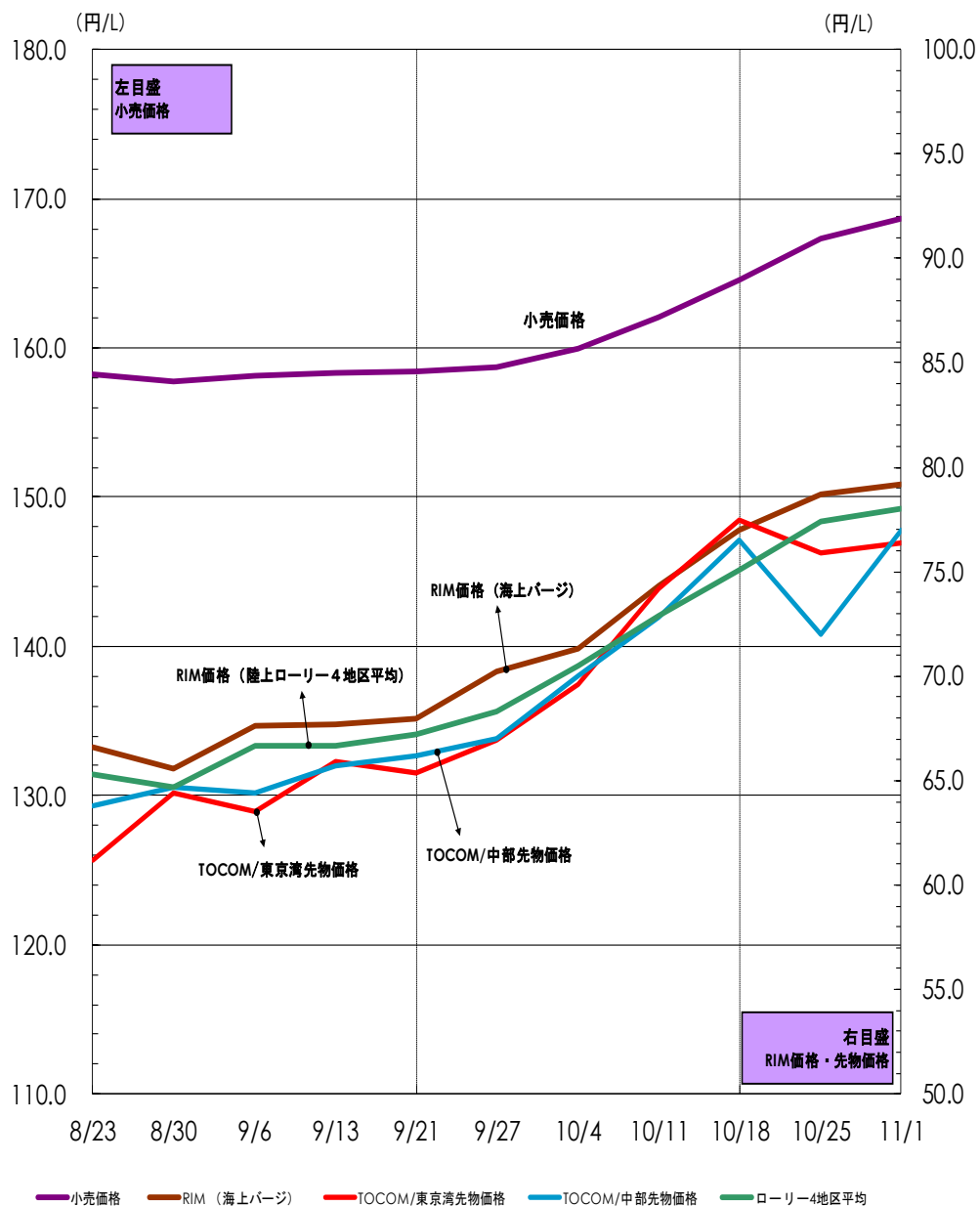
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2021/8/23 ~ 2021/11/1)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回 (2021第31号) の公表は、11/12 (金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(令和3年3月末現在) は、8月25日 (水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。